

取扱説明書
ロボライン
両たあー発
LV-202



ニッショー機器株式会社

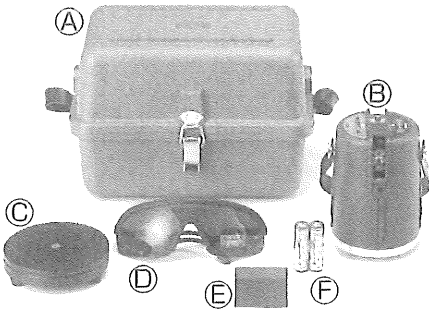
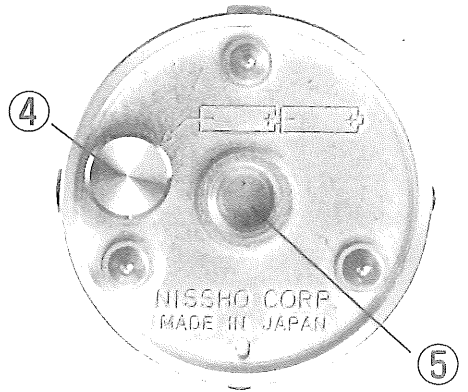
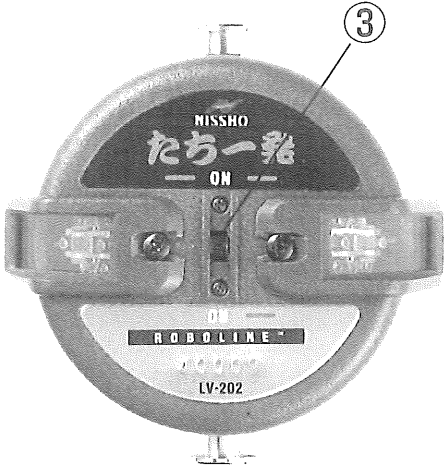
この度はロボライン“たち一発”をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。 “たち一発”は現場での、たち墨・通り芯出し作業のスピード化と小型・軽量化を極限まで追及した、ニュータイプの、半導体レーザー一発振システムです。よりよき作業をしていただくために、説明書をよく読んでからご使用下さい。

たち一発 LV-202各部名称



- ①レーザー光線出口
- ②スライド回転板

- ③スイッチ
 - ④電池収納部
 - ⑤三脚取付ネジ
- (通常使用しません)



- セット内容
- ①収納ケース
 - ②本体
 - ③スライド回転板
 - ④レーザーメガネ
 - ⑤L型アクリル板
 - ⑥単3乾電池2本

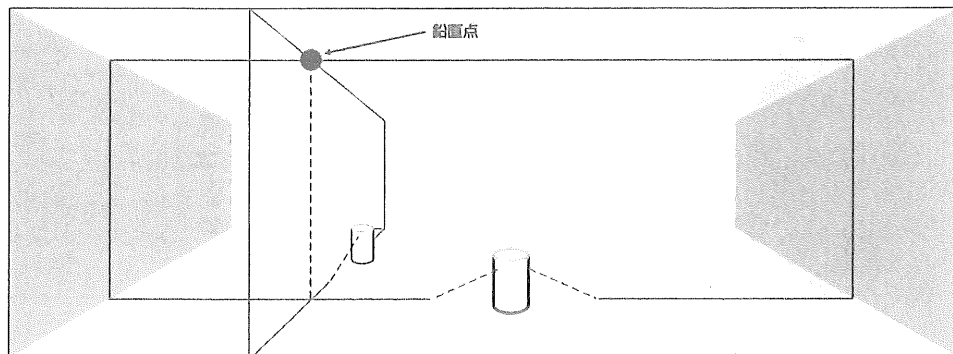
ご使用方法

※ご使用前には必ず後記点検確認方法に基づき点検確認作業を行って下さい。

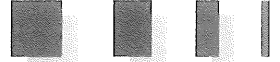
- ① 本体を収納ケースより取り出します。
- ② 本体裏面の電池収納ネジをはずし、本体裏面のマークのように⊕、⊖の極性に注意して電池を入れ、電池収納ネジをしっかりと締めて下さい。(⊕、⊖が正しくないと、点灯しません。)
- ③ 本体上部のスイッチを上に出ると、電源がONとなり左右両側にたち墨がラインで投影されます。スイッチを下に下げると、右側片側のみたち墨ラインが投影されます。スイッチを中間にすれば、電源はOFFになります。測定する壁面より2~3m離し、本体を床面において使用して下さい。このとき、床面が5°以上の傾きがあると、レーザー光線は出なくなります。本体を5°以内の傾斜になるように置いて下さい。(8mm以内の窪みです。)
- ④ 地墨の延長として、たち墨・通り芯を測定する時、本体を壁面より2~3m離して地墨上に置き、地墨とレーザー光線が合うように本体を動かし、たち墨・通り芯の測定を行って下さい。この時付属のスライド回転板を使えばスムーズに地墨合わせが出来ます。
- ⑤ 付属品の「L型アクリル板」を、本体より約60cm位の所へ置くと、地墨上のレーザー光線が見えやすくなります。また、レーザー光線が見えにくいときは、「レーザーメガネ」をかけてのぞいて見て下さい。レーザー光線がクッキリと見ることが出来ます。

■鉛直点の取り方

2台使うと簡単に鉛直点を出すことができます。



ご使用上の注意



- ① 本体が5°以上傾き、レーザー光線が消えている状態では、正しく測定できません。
- ② レーザー光線が薄い時は電池が切れかかっています。2本同時に取り替えて下さい。この時、⊕、⊖の極性にご注意下さい。(逆に入れると点灯しません。)
- ③ 電池を変えてもレーザー光線が薄かったり、ボヤけたりするときは、綿棒でガラスを清掃して下さい。本体を持ち運ぶ時には、必ずスイッチをOFFの状態にして下さい。
- ④ レーザーポイント“たち一発”LV-202は、レーザー光を使用しています。人体には影響はありませんが、レーザー光出口をのぞいたり、人に向けたりしないでください。(安全基準 クラス2レーザー)
- ⑤ ロボライン“たち一発”LV-202は精密測定器です。落したりショックを与えないでください。また、ご使用前には必ず上記点検方法に基づき点検確認作業を行って下さい。
- ⑥ 長期間ご使用にならないときは、電池を2本とも外しておいてください。

点検確認方法



※ 天井が2～3mの高さで、振動のない場所を選んで下さい。

- ① 壁面に下げ振りをぶら下げ、静止したのち本体を2～3m離してセットします。
- ② 下げ振りの糸の上に、本体からのレーザー光線を合わせ、その位置が許容範囲内ならOKです。
- ③ 許容範囲を越えていたらお買い求めになった代理店へ調整検定にお出し下さい。

世

様



光源	可視光半導体レーザー	635nm
寿命	約	20,000時間
線径	5mで約	1.5mm
鉛直機構	電子気泡管	X-15使用
制動方式	自動整準	方式
自動補正範囲	±	5°
指示精度	<20秒10mで	1mm以下
測定距離	壁面より	5m以下(線径約1.5mm)
電源	単三乾電池	2本
使用時間	アルカリ電池使用時	連続15時間以上、両側点灯時12時間以上
本体寸法	100mm×	155mm
重量	本体	550g ケース 400g



ニッショー機器株式会社

本社・工場 〒577 東大阪市稲田三島町1-20
TEL.06 (744) 1371 (代)
東京営業所 〒120 足立区東綾瀬3-13-2-302
TEL.03 (3620) 3577